



東桜学館 SSH 事業のねらいは、生徒の皆さんに「3つの力」と「2つの態度」を身に付けさせることです。

質 問		評 価 基 準			
		1	2	3	4
1.探究する力					
①課題を設定する力	検証可能な課題を設定できていない。	課題は設定できているが、根拠や目的が曖昧である。	課題を設定することができる。	根拠や目的を持って課題を設定することができる。	
②情報収集する力	先行研究や書籍・予備実験などの情報を収集できていない。	先行研究や書籍・予備実験などの情報が不十分なところが目立つ。	先行研究や書籍・予備実験などの情報を収集することができる。	先行研究や書籍・予備実験などの情報を、積極的な活動を通して収集することができる。	
③整理・分析する力	収集した情報や実験結果などの整理・分析ができず、仮説検証に役立てられていない。	収集した情報や実験結果などの整理・分析が不十分で、仮説の検証が曖昧な点もある。	収集した情報や実験結果などを整理・分析することができる。	収集した情報や実験結果などを整理・分析し、効果的に仮説の検証に用いることができる。	
④まとめ・表現する力 (プレゼンテーション力)	以下の項目のうち、1項目達成ごとにランクアップ <ul style="list-style-type: none"> 聞き取りやすい話し方であり、聴衆の反応を意識して発表できる。 適切な時間内で発表することができる。 発表者の意図が伝わるグラフや図表などを活用することができる。 質問に対して適切な回答をすることができる。 				
2.科学的思考力					
⑤身近な自然から問題を見つけ、見通しを持って考察(実験・観察)し、課題を解決する力	検証可能な仮説設定や十分な実験ができていない。	課題が設定できているが、その解決に向けた仮説の設定が不十分である。	課題の解決のための仮説や見通しを設定することができる。	課題の解決のために設定した仮説や見通し・予備実験などの根拠が明確である。	
⑥根拠を示し論理的に説明する力	仮説を検証できない。または、結論に達していない。	結論は得られているが、根拠が曖昧で仮説の審議の検証が不十分である。	仮説を検証できるだけの定性的な結果が得られ、概ね論理的に結論を導くことができる。	仮説を検証できるだけの定性的かつ十分な結果が得られ、論理的に結論を導くことができる。	
3.他者を理解し協働する力					
⑦他者と対話し、理解する力	グループや聴衆との意見交換が不十分であり、相手を理解するに至らない。	必要に応じてグループや聴衆と意見交換を通して、相手の考えを知ることができる。	グループや聴衆と適切な議論を通して、相手の考えを理解することができる。	グループや聴衆と十分に議論を行い、相手の考えを尊重し、理解することができる。	
⑧仲間と力を合わせて活動する力	情報の共有ができておらず、まだ役割分担も不十分であった。	適切に役割分担して、発表や諸活動を行うことができているが、情報の共有はできていない。	適切に役割分担して、発表や諸活動を行うことができているが、情報の共有は不十分。	グループで情報が共有できており、適切に役割分担して、発表や諸活動を行うことができる。	
4.未来への責任に関する態度					
⑨持続可能な未来をつくろうとする態度	人類社会を持続可能にするために必要な事柄を考えようとする気持ちが無い。	人類社会を持続可能にするために必要な事柄を考えようとする気持ちがある。	人類社会を持続可能にするために必要な事柄を考えることができる。	人類社会の持続可能な未来について考え、後世に伝え残すために必要な行動ができる。	
5.地域への貢献に関する態度					
⑩郷土を理解し愛する気持ち	自分が暮らす郷土について、興味や関心が無い。	自分が暮らす郷土について見聞を広め、郷土の魅力に気づくことができる。	自分が暮らす郷土について見聞を広め、郷土の魅力に気づき、愛着を持つことができる。	自分が暮らす郷土について見聞を広め、郷土の魅力を創造・発信することができる。	
⑪地域参画力(地域のために役に立とうとする気持ち)	地域に貢献していこうとする気持ちが無い。	より良い地域の将来について、前向きに考えることができる。	より良い地域の将来を見据え、自分が何をすべきか考えることができる。	より良い地域の将来を考え、積極的に地域と関わる活動の創生・参加を行うことができる。	

現在の自分自身と目指すべき自分の理想像を照らし合わせてみよう！

